

令和4年度 学校評価実施報告書（中間報告）

教育目標

「探究心を持って未来を創造し、心豊かにたくましく生き抜く生徒の育成」

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和4年9月30日	学校運営協議会理事の皆様
最終評価		

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

・本校の学習課題を明確にし、学習指導要領を踏まえ、各教科・領域の指導と評価の一体化を意識した授業改善を図る。

- ・各教科の指導と評価の一体化を意識したテスト問題の作成を図る。
- ・多様な学習形態を取り入れ、生徒が身につけた知識や技能を活用する場面を設定して、主体的・対話的な学びの充実を図る。
- ・探究活動を意識した授業展開を充実させ、主体的に学習に取り組む力を身に付けることで、学習意欲の喚起を図る。
- ・G I G Aスクール構想のもと、タブレット端末を活用した学習に積極的に取り組む。

具体的な取組

- ① 授業において「めあてや見通し」の確認とそれに対応した「まとめ」を的確に行い、学習の「振り返り」により、生徒自身が自分の学習を評価（価値や意義）することを徹底する。
- ② 教科指導の在り方として、学習確認プログラム等の結果を分析し課題を明確にした授業改善に取り組む。
- ③ 授業力向上を図るため、研究授業や研修会への積極的な参加を促し、研修会で得た成果を伝達研修し、教職員間で共有を図る。
- ④ 教員が相互に高めあうための授業観察および指導助言を行うとともに、若手・中堅教員実践道場など、O J Tを取り入れた研修を充実させる。
- ⑤ タブレットドリル等を活用し自主的に家庭学習等の定着を図る。

(取組結果を検証する) 各種指標

(指標)

- ・授業改善による生徒の変容
- ・学習確認プログラムの結果
- ・研究授業の授業研修会の研究協議（指導主事からの授業評価。）
- ・教職員との面談

(アンケート項目)

- ・授業内容がよくわかる。（生徒向け）
- ・授業のねらいをはっきりさせている。（生徒向け）
- ・板書、ワークシートはわかりやすい。（生徒向け）
- ・教育活動の内容や子どもたちの様子などが保護者に伝えられていますか。（保護者向け）

中間評価

各種指標結果

○全国学力・学習状況調査の結果（平均正答率）

国語	本校	67	京都府	69	全国	69
数学	本校	52	京都府	52	全国	51.4
理科	本校	48	京都市	49	全国	49.3

○3年学習確認プログラム（1st Stage）の結果（平均正答率）

総合	本校	53.4	京都市	54.9	国語	本校	60.2	京都市	62.6
社会	本校	51.9	京都市	53.4	数学	本校	54.0	京都市	52.6
理科	本校	49.3	京都市	50.5	英語	本校	51.4	京都市	54.8

○全生徒 学校評価アンケート項目（質問項目を変更）

・私は、集中して先生の説明を聞いている

よくできている：52% 大体できている：39% あまりできていない：7% できていない：2%

・私は、ノートやワークシートを丁寧に書いている

よくできている：56% 大体できている：36% あまりできていない：6% できていない：2%

・私は、家で学校の授業の予習・復習をしている

よくできている：25% 大体できている：36% あまりできていない：28% できていない：11%

・授業を通して、コミュニケーション能力が身についた

よくできている：57% 大体できている：35% あまりできていない：6% できていない：2%

・学校教育目標に沿った教育活動（授業や行事など）行なうこう

よくできている：19% 大体できている：68% あまりできていない：6% できていない：1%

わからない：6%

・子どもが、学校の予習や復習、宿題に取り組むこと

よくできている：15% 大体できている：37% あまりできていない：32% できていない：13%

わからない：3%

自己評価

分析（成果と課題）

全国学力・学習状況調査の平均正答率をみると、数学は全校・京都府と同水準であるが、国語、理科は低かった。3教科とも、評価の観点の知識・技能では、正答率には差はないが、思考・判断・表現力では、正答率が低かった。また、問題形式の記述式の項目では、各教科も低かった。

学習確認プログラムにおいても数学以外は京都市平均を下回り、全国学力・学習状況調査と同様、思考・判断・表現力では、正答率が低かった。

以上の状況を踏まえ、昨年度同様これらの改善を図るためにも、定期テストや単元テスト等で作問について工夫が必要である。

生徒側の要因としてアンケート結果からみて、家庭学習が十分に定着していないことが考えられる。習い事などで、時間的に難しいかと思いますが、テストの結果、自己の課題を見つけ、改善していくためにも家庭での予習・復習の意識を高めていくことが課題として考えられる。

分析を踏まえた取組の改善

・コロナ禍で工夫が必要にはなるが、思考・判断・表現力の向上にむけて、授業改善が必要である。学校教育目標にも挙げている「探究心」が持てるよう、主体的に課題を見つけ、解決を図ることを目指した授業展開を工夫する。

・学習指導要領の新たな観点を踏まえた指導と評価をふまえた校内研修を行い、研究授業を通じ

	<p>て授業改善の推進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自分の課題を確認するために自主的に家庭学習の充実につなげるため、タブレットドリルの活用に取り組む。 ・定期テスト問題の工夫。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内授業研究での協議内容 ・各教員の自己評価 ・定期テスト問題の検証 ・タブレット端末の活用状況
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、教職員の頑張りは評価していただいているが、結果につながっていないことを危惧されており、今後の授業改善等に向けて期待をされている。 ・学校運営協議会の理事会等で、学校の学習面の取組の検証を行う機会を増やし、建設的な意見交流の機会を求めておられる。 ・タブレットの活用について、昨年度から変更点などの質問があり、さらなる効果的な活用を工夫してほしいとの要望があった。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別の教科 道徳」の時間を中心に、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実を図る。 ・様々な場面を通して、規範意識の育成を図る。 ・自尊感情（自己肯定感や自己有用感）や自己指導能力・共感能力の育成を図る。 ・いじめや暴力を許さない生徒を育成する。
	<p>具体的な取組</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 昨年度までの「しなやかな道徳」推進事業を踏まえ「考え、議論する」道徳指導の充実を図り、生徒間の意見交換を大切にする場の設定や教材の工夫した道徳の時間を進める。 ② 道徳の評価についても研修を深めて、生徒の意識を高める評価を実践する。 ③ 「あいさつができる 時間を守れる 人の話がしっかりと聴ける」など、ルールを守り、他人を尊重する活動を生徒会活動として取り組む。そのため、教職員に指導はもとより、教職員も意識して実践する。 ④ 自己有用感等の自尊感情を高めるため、生徒の主体的な活動を重視するとともに、集団の一員として責任を果たし自分への自信を深める取組を進める。また、体験的な学習や行事的な学習を中心に、ひとりひとりの生徒に成就感を持たせる。 ⑤ 生徒の人権感覚を高め、他者を思いやる気持ちを育む取組を学校全体で推進する。 ⑥ 華道体験を通して、伝統文化を受け継ぎ伝える取組を推進する。 <p>各学年の代表生徒が全校生徒の前で自分の思いや考えを発表する「トークイン双ヶ丘」を年間2回実施します。今年度は作文の発表だけではなく、教科をはじめ様々な取組の中から、生徒の発表する力と聴く力の育成を図る。そして、他者の意見と自分の意見を調整してより良い合意を目指す視点を持たせる。</p>

(取組結果を検証する) 各種指標

(指標)

- ・道徳の取組による生徒の変容 (参観者からの授業評価。)
- ・生徒会活動による生徒の相互評価
- ・キャリアパスポート, きらりノート等取組のまとめの記載内容
- ・アンケートの結果

(アンケート項目)

- ・学校の約束事やきまりを守っている。(生徒向け)
- ・学校行事や生徒会行事を通して, 達成感や成就感を感じることができる。(生徒向け)
- ・教職員は, 子どもの良いところは認め, いけないところは, 注意していますか。(保護者向け)
- ・生徒は, 自分の気持ちを伝えたり, 相手の気持ちを考えたりすることができている。(保護者向け)

中間評価

各種指標結果

○学校アンケート項目

- ・学校の規則や約束事をまもっている。(生徒)

よくできている : 70% 大体できている : 27% あまりできていない : 2% できていない : 1%

- ・学校行事や生徒会行事を通して, 達成感や成就感を感じることができる。(生徒)

よくできている : 64% 大体できている : 28% あまりできていない : 5% できていない : 3%

- ・先生は, 良いところは認め, いけないところは, 注意してくれる。(生徒)

よくできている : 75% 大体できている : 21% あまりできていない : 3% できていない : 1%

- ・教職員は, 子どもの良いところは認め, いけないところは, 注意していますか。(保護者)

よくできている : 17% 大体できている : 56% あまりできていない : 2% できていない : 3%

わからない : 22%

- ・子どもは, 自分の気持ちを伝えたり, 相手の気持ちを考えたりすることができている。(保護者)

よくできている : 7% 大体できている : 38% あまりできていない : 43% できていない : 12%

わからない : 0%

- ・「道徳」の時間など, 自分の生き方や望ましい言動について楽しく学んでいる (生徒)

よくできている : 56% 大体できている : 36% あまりできていない : 6% できていない : 2%

自己評価

分析 (成果と課題)

・生徒アンケートの「学校の規則や約束事をまもっている。」よくできている、大体できているで90%近くの生徒が肯定的な回答であり、落ち着いた学校生活を送っていると考えられる。

・生徒アンケートの「学校行事や生徒会行事を通して, 達成感や成就感を感じることができる。」でも昨年と比較し、よくできているが13%高くなっている。コロナ禍で少しずつ規制が解除される中で、より積極的に取り組むことが出来た生徒が増えたと考えられる。取組を通して、各自の役割を果たすことの積み重ねによる自己有用感を向上させるよう活動を継続していくことが大切である。

・道徳に関して、昨年度までの研究を生かし楽しく学んでいる生徒も多く、成果の継続と考える。さらに指導を充実させるための研究推進が必要である。

・保護者アンケートの「子どもは, 自分の気持ちを伝えたり, 相手の気持ちを考えたりすることができている。」の質問に対して、あまりできていないと感じておられる保護者が増えた。

分析を踏まえた取組の改善

	<ul style="list-style-type: none"> 行事はもちろん学級や学年の取り組みにおいて、生徒一人一人に適切な役割を与え、その役割を確実に達成させるステップを積み重ねていきたい。 道徳の授業において「考え、議論する」道徳の展開を、自分の考えを伝えたり、相手の気持ちを考えたりすることが出来るよう、授業改善を推進する。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳授業の振り返り キャリアパスポート、きらりノート等の記載内容 アンケートの結果
学校 関係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で制限された中であったが、学校行事や生徒会活動・部活動に対して、昨年以上に生徒たちが頑張っていたとの報告を聞いて安心している。 学校運営協議会として協力できる取組には、積極的に支援したいとのお話をいただきました。 保護者アンケートの「自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを考えたりすること」できていないと感じられる保護者が増えていることが気になる。具体的にどのように感じておられるのか聞き取りをして、改善に努めてほしい。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生涯を通じて自他の健康課題に適切に対応する教育活動を推進する。 基礎体力の向上や基本的生活習慣の確立に向けた指導を推進する。 安全教育（生活・交通・防災）の充実を図る。
	<p>具体的な取組</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本学校歯科医会より令和3・4年度「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業」の指定を受け、歯磨きをはじめ、基本的生活習慣の確立を目指し、学校と家庭が連携し、運動・食事・睡眠などの生活習慣を子供たちが規則正しく身に付けるための連携を図る。また、体力向上と連携した取組みを推進する。 コロナ禍において、新たな生活様式を踏まえた日常生活における健康状態の把握の意識づけを図る。健康観察で健康状態を把握し、感染症対策等、日々の健康面についての認識を深める。 体力テストの結果を分析し、課題を明確にした体力向上年間計画を策定し、取組みの推進を図る。 中学生の健康・安全に対する課題（薬物乱用防止、食育、性に関する指導、自転車交通安全等）への対応を含め、学校の教育活動全体を通じた体系的な学校保健・安全の充実を図る。 生徒のバランスの取れた生活や成長に配慮するため、部活動指導の充実を図る。 <p>2年生が総合的な学習で取り組んでいる「防災に関する学習」については、地域防災の視点で地域との連携を深める。</p>
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <p>(指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康観察などの取組記録や保健調査 健康診断の結果 新体力テストの結果 「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり」推進事業を通しての取組み

中間評価

各種指標結果

○全国学力・学習状況調査（生徒質問紙）

・朝食を毎日食べていますか。

している：79% どちらかといえば、している： 11% あまりしていない：6% していない：4%

・毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

している：42% どちらかといえば、している：36% あまりしていない：18% していない：4%

・毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

している：60% どちらかといえば、している：31% あまりしていない：7% していない：2%

○新体力テスト

・男子：1・2年生は各測定項目で京都市の平均を上回った。3年生は上体起こし、長座体前屈、20mシャトルランで京都市の平均を下回った。

・女子：1年生は長座体前屈、2年生は20mシャトルラン、ハンドボール投げ、3年生は上体起こし、反復横とびが京都市平均を下回った。

○カラーテスターによる歯みがきチェック（自己評価）

きれいに磨けている：1回目 12% 2回目 28%

汚れている： 1回目 7% 2回目 2%

自己評価

分析（成果と課題）

・全国学力・学習状況調査の生徒質問紙で、健康生活に関わる項目「朝食を毎日食べていますか。」において、「あまりしていない」「していない」で10%で、全国よりも、少し高かった。食育と合わせ、健康に関する課題と考えられる。

・「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」において、「あまりしていない」「していない」で、全国、京都府より若干割合が高かった。規則正しい生活習慣が身についていないと考えられる。

・コロナ禍で全体的には体力の低下が見られる。新体力テストの結果を踏まえ、向上を図れるように、保健体育の授業や部活動を計画的に進めることが必要である。

・「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり」推進事業の取組みにおいて、歯みがき指導の効果が少しづつ表れてきた。この取り組みを契機に、自分自身の健康について考えさせることができるとかが課題である。

・コロナ禍において 感染対策を生徒も意識をして取組、健康状態について意識は高まっている。

分析を踏まえた取組の改善

・食育等も含め、健康教育に関する取組の改善を図る。

・「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり」推進事業の取り組みを、次年度以降にどのようにつなげていくか検討をする。

・毎朝の健康観察を通して、生徒はもちろん、教職員の健康に対する意識向上を図るとともに、生徒の健康状況の把握に努める。

・基礎体力向上を図るため、保健体育の授業や部活動においてトレーニングを取り入れる。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

・健康観察などの取組記録や保健調査

・生徒や保護者からの意見集約

・学校保健委員会での意見集約

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染の状況について質問があった。今後も感染防止対策の徹底をお願いします。 ・全体的な体力低下が気になります。体育の授業や部活動を通して体力向上に取り組んでほしい。

(4) 学校独自の取組

重点目標	学校組織の見直しを図る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指定を活用し、学校教育目標達成に向けて、取組みを推進する。 ・昨年度に引き続き、総合的な学習において系統的な取組を見直し、より効果的に探究活動を行う。
具体的な取組	① ミドルリーダーを中心とした組織を編成し、取組みの活性化を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> ② 「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり」の事業を中心とし、健康教育の推進を図り、学校全体で取り組む。 ③ 生徒が身につけた知識や技能を活用して、探究活動を行い、課題を解決するために共に学び考える力を、各教科との結びつきを意識して取り組む。 ④ 生徒が身につけた知識や技能を活用する場面として、行事の設定を行う。
(取組結果を検証する) 各種指標	(取組結果を検証する) 各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員との面談および自己目標申告書による報告 ・研究のまとめ ・行事に参加していただいた方の感想や意見 ・学校評価アンケート

中間評価

自己 評 価	各種指標結果
	<p>○学校アンケート項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間」では、意欲的に取り組み、みんなと協力して探究活動を進めている。 よくできている：56% 大体できている：36% あまりできていない：6% できていない：2% ・授業を通して、コミュニケーション能力（お互いに考えていることを伝え、理解しあえる力）が身についた。 よくできている：57% 大体できている：35% あまりできていない：6% できていない：2% <p>○教職員面談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分掌で主任を任せられたことで、大変であるが責任感を感じる。 ・新たな視点での意見が出るようになった。 <p>○研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり」推進事業において、歯みがき指導などコロナ禍において工夫しながら推進している。
分析（成果と課題）	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌主任をミドルリーダーにすることで、学校組織の活性化に向けて取組がスタートできた。 ・研究指定の取り組みも、推進委員の先生方に負担をかけているが、少しずつ学校全体の取組に

	<p>なってきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究活動を意識した授業展開が進んでいない。ICT等を活用していくなど、学校全体としての工夫が必要である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究活動において、ICT活用による授業展開を工夫するための研修を計画し、教員の指導力を高めていきたい。 ・「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり」推進事業の研究発表に向け、学校全体で推進していくように、取り組んでいきたい。 ・後期の取組において、生徒の自己有用感や自尊感情が高められるように仕掛けを設定していきたい。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究活動や道徳の取り組みに対して、教職員間で検証を行う。 ・研究指定の取り組みに対して、教職員間で検証を行う。 ・各取組に対して、生徒の振り返りから効果を検証する。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度もコロナ禍で、実際の学校生活における子供たちの活動をする姿を見ることが十分にできないのが、大変残念である。学校運営協議会として、協力できることは積極的に支援していきたい。

(5) 教職員の働き方改革について

	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多忙の内訳を分析し、効率的に公務を進めることができるように、取組み改善を図り、持続可能な学校組織の構築を図る。 ・教育効果のあるもの取捨選択し優先順位をつけ、業務遂行を図る。
	<p>具体的な取組</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学校行事・会議等を精選し、教職員や生徒の発想転換で取組を改善する。 ② 「19:00電話応対終了、20:00学校閉鎖」を全教職員で共有し、徹底を図る。 ③ 毎週木曜日を「エコデー」として設定し、19:00学校閉鎖」とする。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出退勤システムの数値 ・年休の取得 ・教職員の変容

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務の状況は、4・5月は昨年と比べると少し多かったが、6月以降は減少してきている。しかし、80時間超の時間外勤務の人数はあまり変化がない。 ・長期休業中は、計画的に取得する教職員が少し増えた。 ・「エコデー」を設定しているが、教職員の意識改革までは至っていない。
自己	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事量の偏りがあることもあり、特定の教職員に負担がかかっている。

評価	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革の必要性を訴えてはいるが、具体的な取組が進められていない。また、まだ意識の低い教職員の見られることもあり、場合によっては、強制的な取組も必要かも？ 学校行事等、仕事の見える化を進めることで、計画的で効率よく仕事を進めていく工夫が必要である。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 取組を係ごとにチームとして進め、特定の教職員に負担にならないように配慮していきたい。 来年度に向けて、学校行事等、取り組み内容や必要時間を洗い出し、学校の実情に合わせた精選を行う。 「エコデー」の再確認 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 出退勤システムの数値 教職員との面談の内容
学校 関係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校が遅くまで明かりがついていることを心配されている。 時間的なことだけではないが、働き方改革の重要性を理解し、生徒のためにどうして必要なかをそれぞれの教職員が考えてほしい。

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標	<p>生徒全員が楽しく学校生活を送るために、教職員一人ひとりが「いじめ」に対する認識の向上を図るとともに、情報共有を徹底し、「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を教職員全員で組織的に行う。</p>
具体的な取組	<p>「学校いじめの防止等基本方針」に同じ</p>
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート（いじめに対するアンケート・クラスマネジメントシート等）の結果 保護者アンケートの結果 生徒指導委員会（いじめ対策委員会）による情報提供 学校運営協議会理事による学校評価

中間評価

各種指標結果

○学校評価アンケート項目

- ・「学校教育目標に沿った教育ができる。」（教職員）

できている：29% 大体できている：65% あまりできていない：0% できていない：6%

- ・「学校・学級では楽しく過ごすこと」（生徒）

できている：72% 大体できている：25% あまりできていない：2% できていない：1%

- ・「先生は、困ったときに親身になって相談に応じてくれる。」（生徒）

できている：65% 大体できている：30% あまりできていない：4% できていない：1%

- ・「先生は、学校で起こった問題（いじめなど）に対して、しっかり対処してくれる。」（生徒）

できている：70% 大体できている：25% あまりできていない：3% できていない：1%

- ・「生徒には、困ったときに親身になって相談に応じている。」（教職員）

できている：12% 大体できている：82% あまりできていない：12% できていない：6%

- ・「生徒は、学校で起こった問題（いじめなど）に対して、しっかり対処すると感じている。」

（教職員）

できている：12% 大体できている：71% あまりできていない：12% できていない：6%

- ・「子供が困ったとき、教職員は親身になって相談に応じている」（保護者）

できている：17% 大体できている：49% あまりできていない：11% できていない：3%

わからない：21%

- ・「学校生活の中で、気になることがあった場合、教職員による適切な指導や家庭連絡をすること。」

（保護者）

できている：25% 大体できている：57% あまりできていない：4% できていない：2%

わからない：12%

自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none">・いじめアンケートの結果、小学校からの関係で気になる事例があり、子どもから事実関係を確認し指導に当たり、保護者への連絡等の対応を素早く行うことで、それ以降トラブルになることなく、生徒は学校生活を送っている。教職員が常に情報を共有し、指導がスムーズに進められていると考える。・学校評価アンケートの結果を踏まえると、生徒は「困ったとき、教職員は親身になって相談に応じている。」について、95%以上が肯定的にとらえている。また生徒は「学校で起こった問題（いじめなど）に対して、しっかり対処してくれる。」についても 85%以上が肯定的にとらえている。しかし保護者は「子供が困ったとき、教職員は親身になって相談に応じている」では 65%の方が肯定的ではあるが、14%の方は否定的で、わからないと回答された方が 21%もおられた。また「問題行動に対して、適切な指導、家庭連絡がされている。」については、82%の方が肯定的ではあるが、6%の方は否定的で、わからない方が 12%おられた。コロナ禍で、家庭訪問等ができない状況で、電話連絡が影響しているのではないかと考えられる。どのような小さな問題でも保護者と連携をとり、担任等をはじめ学年、生徒指導担当が中心に対応にあたり、信頼関係を築く必要があると考える。今後さらに教職員が情報を共有して組織として対処することが不可欠である。・保護者や学校運営協議会等に、学校いじめ防止基本方針や学校の取り組みを説明・周知している。また学校のいじめ対策委員会設置も学校だより等で紹介し生徒には、いじめをはじめ何か困

	<p>りごとがあればすぐに相談ができる体制があることを伝えている</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ（嫌がらせも含む）は絶対許されない」という意識を高めるよう、人権学習をはじめ学校生活のあらゆる場面で指導を進め、取組の充実を図る。 ・保護者との連携を深めるためにも、子供たちの学校生活の様子を学校だよりやHPにおいて発信する。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート（いじめに対するアンケート・クラスマネジメントシート等） ・保護者アンケート ・学校運営協議会理事による学校評価
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケートの「困ったときに親身になって相談に応じてくれる。」において、子供と保護者の感じ方に差があるのがどうか？コロナ禍で家庭訪問もしにくいかと思いますが、しっかりと連携をとってほしいという意見があった。 ・「いじめ」も大きな問題だが、不登校生徒への対応についても、しっかりとお願いします。